

2014年2月、卓越した大学院拠点形成支援補助金による助成を受けて、アメリカ合衆国ペンシルヴェニア州フィラデルフィアにおいて約二週間の研究調査を行った。以下に研究活動の報告を記したい。

1. 調査の目的

今回の調査の目的は、1793年、当時の合衆国首都フィラデルフィアを襲った大規模な黄熱病の流行に関して、①崩壊した共同体を再生しようとした住民の奮闘の過程、②感染への恐怖を克服しようとした住民の行動様式を明らかにするための史料を得ることであった。こうした目的に基づき、以下の調査を行った。

2. 調査内容

第一に、Library of College of Physicians において、当時医師(Adam Kuhn)が残した黄熱病に関する講義録(1794年)や、黄熱病流行下のフィラデルフィアの観察記(1793年)などを収拾した。

第二に、アメリカ哲学協会図書館において、黄熱病流行当時のフィラデルフィアの様子を克明に記していることで知られる Jacob Hiltzheimer の日記や、活発な治療を行ったことで知られる医師、Benjamin Rush に宛てた妻 Julia の手紙などを参照した。

第三に、ハヴァフォード大学図書館の Quaker&Special Collections から、Robinson Family Papers を参照した。このコレクションには、黄熱病流行下のフィラデルフィアにおいてクエーカー教徒の住民が交わし合った手紙が収録されている。なかでも、麻痺状態に陥った市の公共サービスにかかわって公共衛生や治安回復のために尽力した市民有志の一員である Daniel Offley の手紙が含まれている点で重要である。

第四に、ペンシルヴェニア歴史協会において、黄熱病流行下の様子を記した個人の手紙(①Hollingsworth Family Papers ②Robert Simpson Letterbook ③Hazard Family Papers)や、日記(Sarah Logan Fisher Diaries)を参照した。いずれもパニック状態に陥ったフィラデルフィア市内で生活する人々が、自らの不安や身近な人を失った悲しみ、家族の健康状態などを克明に記しており、今回の調査の目的に適合した重要な史料であった。

3. 調査の成果と今後の課題

上記の調査活動を通じて、未曾有の疫病の流行に直面して自らの置かれた状況を理解しようとする住民の苦悶や、荒廃した市内の秩序を回復しようとした有志の活動の軌跡、ならびに当時の医師による黄熱病の解釈などを理解するために重要な史料を収拾することができた。今後、二次文献の整理と並行して収拾した史料の読解をさらに進め、来年度中に「1793年のフィラデルフィアにおける黄熱病の流行と公共性の醸成」と題した論文にまとめたい。